

佐保川小学校

自然観察学習支援・レポ

(春の樹木授業)

小島 武雄

平成5年5月1日

自然教室・学校支援は、佐保川小学校で行われました。4年生2クラスの自然観察です。9時30分と、10時35分の2時限の予定で行われました。

校長室でお聞きした、今回のテーマは「あたたかさ生き物」。

朝8時30分、五月晴れ、爽やかな風の吹く校庭に自然観察のメンバー7名が集まりました。

それぞれ準備した、班分けの番号ゼッケン。植物表示シール。樹木写真、樹木利用例の写真パネル、付箋をいっぱい付けた図鑑などを持ち寄り、やる気満々！千載会長も来てくれました。

子どもたちが校庭に集まるまで1時間余り、各ポイントにて説明する樹木を全員で事前確認します。

佐保川小学校には、たくさんの樹木が植っていて、対象樹木は全部で、21種もあります。子どもたちに楽しく興味を持ってもらうこと、飽きさせずに話をするのが課題です。

樹木の名前を知ってもらう事よりも、春の柔らかな若葉を指でつまんだり、咲いている花の匂いを嗅いだり、ちょっと味見したり、木肌のザラザラやゴワゴワに手を当てて感じる事など。そして、この木がどのように利用されているか。そして、これから夏になったら、どんな風になっているか？を想像させるように。

元気いっぱい、わーっと、子どもたちが校庭に出てきました。先生の号令！「前へならえ、姿勢を正して」。一緒に「おはようございます」。

「よろしくをお願いします」。いよいよ始まりました。

最初に千載会長から「今年是一年間、自然観

察、春から冬までやりますよ、楽しく学んでください」。

校庭の小さな築山では、クスノキ(葉の匂い、小さな花)、ウメ(緑の小さな実)、ハナミズキ(花が少し残っていた、ハナミズキと桜をアメリカと交換した話)、ヒラドツツジ(花の構造、虫を呼ぶ点々模様)、ソメイヨシノ、イロハモミジ、カエデ(プロペラの種とカエルの手)、ビワ(小さな緑の実)、イチヨウ、アキニレ、クロガネモチ(葉に文字が書ける、タラヨウのハガキの実物を見せる)、カナメモチ(赤い葉に囲まれた白い花)、クヌギ、イチイガシ、ドウダンツツジ(小さな白い花)。さらに、駆け足で行った校庭の隅っこには、キリ(種が運ばれている、下駄の写真)、フェンスには、スイカズラ(白い花の香り、蔓)、ミツバアケビ、ヤマモモ(四季の変化、雄花と雌花、食べられる実)、ケヤキ(ほうき状の樹形)、ユズリハ(古い葉は落ちる)、サクラ(小鳥の食べる実)。

子どもたちに囲まれて、どこまで話せたのか、あっという間に終わりです。



(班番号を胸に、子どもたちに最初のお話)

子どもたちの発見は、小さな青虫、ゲジゲジ、カエル、セミの抜け殻、どんぐりから出て来た根、虫コブなど、どんどん興味、関心が広がります。終わり頃には、話を聞いてない子もいて、少し飽きた様子も。

最後に、千載会長から、「また夏に会おうね」の挨拶。子どもたちから「夏って、いつ？」の質問あり。